

単元名（教材名）

めざせ跳び箱マスター（B 器械運動 ウ 跳び箱運動）

本時の目標

開脚跳びのポイントマップや友達の動きを見て、考えたことや見付けたことを伝えることができる。
〔B 器械運動（2）〕

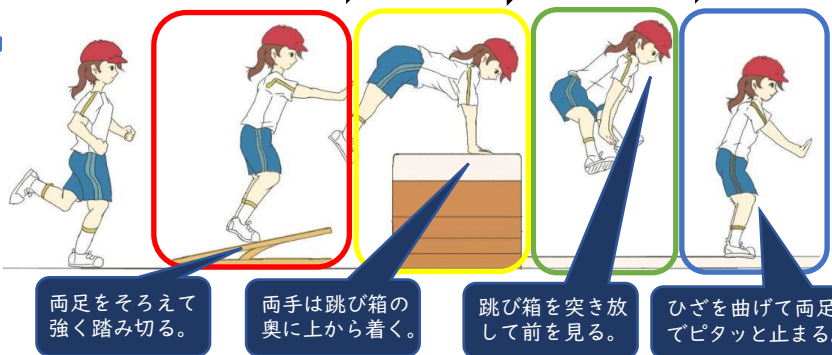
読解力向上プランVer. 2における指導のポイント

- ⑦見たことを正確に文章にしたり、絵に描いたりする活動をさせる。
- ⑨図や表、グラフを活用して文章等にまとめさせる。

	学習活動	指導上の工夫
導入	○感覚づくりの運動を行った後、開脚跳びの一連の流れを示したポイント拡大マップを見て、動きの順序を確認する。	
展開	<p>☆ポイントマップを見て、技のポイントについて考える。</p> <p>☆友達の動きを見て、気付いたことを伝える。</p>	<p>・四つの動きの順序を確認し、ポイントにつながる部分に注目させる。</p> <p>・グループで見る視点を明確にし、友達の動きを見て具体的にアドバイスをさせる。</p>
まとめ	○技（開脚跳び）のポイントについて、学んだことを振り返りシートに記入する。	

☆板書例☆

①踏み切り → ②着手 → ③空中姿勢 → ④着地



☆児童の発言例☆

（技のポイントを考える場面）

- T: ②着手の動きでは、手の形はどのようになっているかな？
 C: 両手はパーになっているよ。
 C: 両手はくっつかずに少し空けて置いてるよ。
 T: 両手は跳び箱のどこに着いているかな？
 C: 跳び箱の奥の方に手を着いているよ。
 C: 跳び箱の手前ではないんだね。

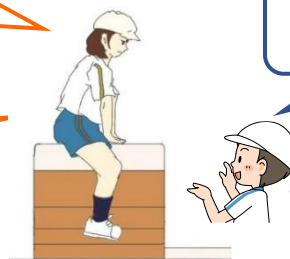
☆対話例☆

（見合い学習の場面）

踏み切りまでは上手くいったけど、手の着く場所が手前だったんだね。

手はパーになっていたけど、手の着く場所が手前だったから上手く跳べなかったと思うよ。

手の着く位置をポイントマップで確かめてから、次は奥の赤ラインに手を着いて跳んでみよう。



手の着く場所はポイントマップで見たら、奥だと分かるね。

◇実践のポイント◇

本授業では、ポイントマップから技の一連の流れをイメージさせ、動きの順序に着目して言葉や文章で表現させることで、技のポイント（行い方）の理解につなげます。技のポイントを理解した上で、体現できるように意識させることで技の定着を図ります。また、友達との見合い学習の場面で、友達の動きを見て、具体的なアドバイス等を伝えることもできます。

◇活用できる単元例や教材例◇

本授業モデルで示したポイントマップ（図）を活用したり、動きを見たりして言葉や文章で表現する学習活動は、マット運動や鉄棒運動、ハードル走等、技を習得させる場面で活用できます。